

「再生エネ 世界に広がれ」



ペットボトルで作った「風車」をプールで回してみる児童
—五島市立崎山小

五島の児童 実験などで学ぶ

次世代を担う子どもたちに海や再生可能エネルギーなどについて考えてもらう「海洋再生可能エネルギー十科学」が14日、五島市であり、市内4校の児童が、専門家の講演や実験、見学会を通して理解を深めた。日本財団などが全国各地で展開する「海と日本プロジェクト」の一環で同市では3回目。市海の日実行委が開き、市立岐宿、福江、玉之浦、崎山小の4校から計約110人が参加した。同市に事業所があり海洋再生エネと漁業の共存などを図る渋谷潜水工業の渋谷正信社長らが講演。潜水士として数多くの海中工事も手掛けてきた渋谷社長は、洋上風力発電や潮流発電が進められている五島の

海の可能性と、生き物の育成に必要な藻場の再生など今後の課題について説明した。

日本理科教育支援センターの小森栄治代表は講演後に、ペットボトルを材料にした風力発電の模型作りも指導。児童は崎山小プールで模型を浮かべて「風車」を回したり、渋谷潜水工業が海中調査などで使用するカメラ付き小型機を操ったりして歓声を上げた。

海上タクシーで崎山沖の浮体式洋上風力発電設備も見学。同校6年の入江柚月さん(11)は「きれいで魚がいっぱいいる島の海を将来に残したい。再生可能エネルギーが世界中に広まっていけば」と笑顔を見せた。(石田慶介)

29. 7. 25(火)毎日

五島市は、日本財団「海と日本プロジェクト」が支援する海の日啓発イベント「海洋再生可能エネルギー十科学」を市立崎山小学校で開いた。無尽蔵な再生可能エネルギーや資源を秘めた海への理解を深めるのが目的。玉之浦、岐宿など市内4小学校の5、6年生107人が参加した。

体育館で海と電気について学んだ後、ペットボトルで風車を作り、パチンコ玉を底に詰めてプールに浮かべ、浮体式洋上風力発電の仕組みに迫った。また、プールでの水中探査ロボットの操縦やドローンを使った

市内4小学校 107人が参加

記念撮影に臨んだ後、同小から約5キロ沖に浮かぶ浮体式洋上風力発電(出力2メガワット)を船で見学した。ロボットを操縦した福江小6年、出口翔一郎さんは「ゲーム感覚で操縦したが、難しかった」と話した。

同市の稚島、久賀島、奈留島周辺は国の海洋再生可能エネルギーの実証フィールドに選ばれ、浮体式洋上風力発電は3年間の実証試験を経て、昨年からは営業運転を始めた。奈留瀬戸では2019年の潮流発電の実証試験開始を目標に準備を進めるなど、市は海洋再生可能エネルギーを地域再生の柱に掲げている。【橋山公】

資源豊富な海 理解して

五島市啓発イベント



プールサイドで水中ロボットの操縦に挑む子どもたち

「海洋再生可能エネルギー十科学」

ごとう地コラム **再生可能エネルギーあれこれ通信2**

Column

その3 五島市内の小学生が海洋エネルギーなどを学びました

平成29年7月14日、日本財団の助成を受け、五島市の海や海洋エネルギーを学ぶ“海と日本プロジェクト2017サポートプログラム「海洋再生可能エネルギー+科学」”を開催。市内の小学5・6年生と教諭あわせて124人が参加しました。講師は、(株)渋谷潜水工業の渋谷先生と日本理科教育支援センターの小森先生。崎山沖の浮体式洋上風力発電施設見学や水中ロボットカメラの操作、浮体式風車の模型作成を体験しました。子どもたちは貴重な体験をとおして、新たな視点で五島市の海洋再生可能エネルギーと触れ合いました。



風車をバックに記念撮影

バックナンバー

再生可能エネルギーあれこれ通信2 シリーズ

- その1 児童たちから「体験学習のまとめ」をいただきました 2016年12月19日付
- その2 崎山小学校の6年生がかへ新聞コンテストで入賞しました 2017年02月23日付
- その3 五島市内の小学生が海洋エネルギーなどを学びました 2017年07月29日付